

2023 年度

千葉大学

亥鼻地区の全員留学の支援

に係る活動報告

2024 年 3 月

## 目次

1. 活動概要 .....	1
1.1. 目的.....	1
1.2. 内容.....	1
2. 留学支援に係る活動.....	1
2.1. 千葉大学から海外へ .....	1
2.1.1. 亥鼻地区の実施状況.....	1
2.1.2. 部局別活動状況.....	1
2.1.3. オンラインプログラム MOOCs の受講支援・報告会（資料 1） .....	3
2.2. 海外から千葉大学へ .....	3
2.2.1. 亥鼻地区の実施状況.....	3
2.2.2. 部局別活動状況 .....	4
2.3. 学修支援 .....	5
2.3.1. 亥鼻 English House（仮称）設置の検討（資料 2） .....	5
2.3.2. 亥鼻地区留学支援サイト（ホームページ）の改訂（資料 3） .....	5
2.3.3. 留学準備／英語学修のための図書の貸出（資料 4） .....	5
3. 調査・研究.....	5
3.1. 学生対象調査の実施（資料 5～6） .....	5
3.1.1. 令和 4 年度調査の結果分析と報告.....	5
3.1.2. 令和 5 年度調査の実施.....	5
3.2. 留学関連の情報収集と研究 .....	6
4. 名簿・活動スケジュール .....	7
4.1. 定例ミーティング.....	7
4.2. 亥鼻地区 ENGINE 推進 WG・サブ WG.....	7
4.2.1. 委員名簿.....	7
4.2.2. 活動スケジュールと議題 .....	8
4.3. 2023 年度年間活動スケジュール .....	9

<資料>

【資料 1】	第 5 回 MOOCs 受講者成果報告会（令和 5 年度前期）の開催.....10
【資料 2】	英語能力向上や異文化間交流促進のための学生アンケートの結果.....11
【資料 3】	亥鼻地区留学支援サイト .....18
【資料 4】	留学準備／英語学修のための図書利用案内 .....20
【資料 5】	令和 4 年度留学プログラム履修生を対象とした調査の結果.....21
【資料 6-1】	令和 5 年度留学プログラム履修生を対象とした調査の概要.....27
【資料 6-2】	学生を対象とした留学に関する意識調査の回答結果.....31
【資料 6-3】	学生を対象とした留学アンケート（BEVI）の回答結果.....48

## 1. 活動概要

### 1.1. 目的

本学亥鼻地区において、グローバル人材育成“ENGINE”における全員留学の実施および留学生の受入れの双方を円滑に実施することを目的とする。

### 1.2. 内容

亥鼻地区では、各部局が連携して「全員留学」を推進していくために、学務課と担当教員が定例ミーティングをおこない、留学支援業務を運営した。

当該年度の留学支援担当の主な活動は、亥鼻地区 ENGINE 推進 WG およびサブ WG の開催を通じた各部局における留学プログラム実施支援、国際未来教育基幹国際教育センターの留学生派遣推進部会および専門員会への出席、留学生課との連携による「全員留学」関連情報の収集・整理・発信である。

## 2. 留学支援に係る活動

### 2.1. 千葉大学から海外へ

#### 2.1.1. 亥鼻地区の実施状況

亥鼻地区では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて一時中断していた渡航を伴う部局独自の留学プログラムが再開され、前年度より留学者数が増加した。全学募集のプログラムは、抽選により高次の学年が優先的に留学機会を得られるため、学部1年生の履修者は少ないものの、2年生以上の多くの学生が渡航プログラムに参加した。また、2023年度も継続して実施されたオンライン留学プログラムを希望する学生も多く、学部2年生以上の学生と大学院生が履修した。

#### 2.1.2. 部局別活動状況 ※主な活動のみ記載

##### 【医学部】

医学部では、2023年度はコロナ禍で中止されていた海外派遣プログラムの多くを再開し、短期プログラムとして、2023年7～8月にインジェ大学（韓国）PBLプログラムに医学部3年生2名、トーマスジェファーソン大学（米国）臨床導入プログラムに5年生3名、ブラジル南部巡回診療プログラムに5年生1名が参加した。また、11月には昨年度と同様にハワイ大学 SimiTiki シミュレーションセンター（米国）でのシミュレーションプログラムに5年生8名が参加し、シミュレーションを使ったケーススタディや医学英語のチーム研修を実施した。また、臨床実習プログラムについても協定校の受け入れが再開され、米国、カナダ、ドイツ、フィンランド、台湾、韓国、シンガポール等の様々な地域の病院や診療科で2024年1～3月にアスパイアプロジェクト期間を利用して5年生19名が臨床実習留学に参加した。

##### 【薬学部】

薬学部では、タイのマヒドン大学と部局独自プログラムを用意している。2024年2月1日～11日にかけて、薬学部2年生24名が、マヒドン大学が実施するENGINEオンライン留学プログラムを受講した。オンライン薬学留学プログラムでは、マヒドン大学薬草園のビデオツアー・専門家レクチャー、タイ古式マッサージ体験ワークショップ、地方の人々の生活や文化を知る - 北部タイ山岳少数民族の学生によるセッション・学生交流など多彩なプログラムを提供した。また、2024年3月9日～19日にかけて、薬学部1年生及び2年生の計9名

が、マヒドン大学が実施する対面の薬学留学プログラムに参加した。本留学プログラムでは、薬学の専門的なプログラムに加えて、歴史文化体験やスラム街の支援団体活動の理解などの体験型学習も取り入れた。

#### 【看護学部】

看護学部では、2023年度は複数の渡航プログラムの開始と継続実施をおこなった。文部科学省の大学の世界展開力強化事業である「グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成 (Global & Regional Interprofessional Education Plus Program)」(GRIP Program)において、2024年2月に看護学部学生2名を含む国際教養学部、医学部、工学部、教育学部、法政経学部、看護学研究科の学生計15名がシンピオシス国際大学(インド)とレスター大学(英国)に約10日間滞在し、専門職間社会課題解決演習に取り組んだ。また、2023年度採択の大学の世界展開力強化事業「Blended Mobility Project (BMX)で生み出す「Society5.0人材」の育成とそのインフラの創出」にて、2024年2月21日～3月6日にかけてアラバマ大学(アメリカ)に学生12名を派遣した。さらに、香港国際看護フォーラム(香港)が2024年3月5日に開催され、看護学部学生7名がポスター発表をおこなった。また、2024年3月4日～15日に台北医学大学(台湾)の春季プログラムに、学生1名が看護学研究科学生とともに留学した。

#### 【医学薬学府(医学領域)】

医学薬学府(医学領域)では、グローバルに活躍する人材輩出の促進を目的として、スイス(ジュネーブ)、フランス(ニース)、ドイツ(ライプツィヒ)の3か国にて、予防医学センター主催 海外研修プログラムをおこなった。スイスでの研修は9月12日～15日の日程でおこなわれ、14名の学部生・大学院生(医学部、医学薬学府、看護学研究科所属)が参加した。研修では、WHO(世界保健機関)、WMO(世界気象機関)、UNHCR(国連高等難民弁務官事務所)、UNITAR(国連訓練調査研究所)、IFRC(国際赤十字・赤新月社)、MSF(国境なき医師団)、ILO(国際労働機関)、UNICEF(国際連合国際児童緊急基金)、UNOG(国連ジュネーブ事務所)、在ジュネーブ日本政府代表部を訪問し、世界で活躍する日本人職員の方と交流した。フランスでの研修は11月22日～24日の日程でおこなわれ、10名の大学院生(医学薬学府)が参加した。研修では、コート・ダジュール大学との共催集中講義“The Third International Education Course on Environmental Preventive Medicine”で、コート・ダジュール大学の教授・学生たちとディスカッションをおこなった。ドイツでの研修は11月28日～30日の日程でおこなわれ、13名の大学院生(医学薬学府)が参加した。研修では、シャリテ医科大学との共催集中講義“Collaborative Intensive Programme on Environment, Climate Change and Health”で、シャリテ医科大学の教授・学生たちとディスカッションをおこなった。

#### 【医学薬学府(薬学領域)】

部局独自のプログラムとして、チュラポーン大学院大学(タイ)への1～2ヶ月間での研究留学プログラム: Master Student Training Experience in Pharmaceutical Sciences (M-STEPS) ENGINE Program at Chulabhorn Graduate Institute (CGI), Thailand.により、有機化

学系の研究室から2名の大学院生が先方の研究室に留学し、研究をおこなった。このほか、部局独自プログラムとしてマヒドン大学、チュラロンコン大学（いずれもタイ）に各1名ずつが1ヶ月間の研究留学をおこなった。また、2月12日、13日の日程にて、チュラポーン研究所・大学院大学（タイ）を薬学研究院の教員6名、大学院生3名で訪問し、第4回のCRI-CGI-Chiba Symposium in Chemistry and Biomedical Sciencesに参加した。期間中、生物系の研究者間でリモート会議を行い、相互理解の深化、今後の交流拡大に向けた議論をおこなった。

### 【看護学研究科】

看護学研究科では、オンラインと渡航プログラムをおこなった。8月14日～19日の日程でオンラインプログラム「看護学生のためのインド・フィリピン研修プログラム」に研究科学生8名が参加し、9月25日には学習成果発表会を開催した。GRIPプログラムでは、2名の大学院生が他学部学生とともにシンビオシス国際大学（インド）とレスター大学（英国）に渡航し専門職間社会課題解決演習に取り組んだ。また、2024年3月4日～15日に台北医学大学（台湾）の春季プログラムに1名の大学院生が参加した。さらに、3月12日～15日の日程で1名がライプツィヒ大学（ドイツ）へ渡航し大学キャンパスや病院、助産関連施設、授業の見学とともに今後の交流拡大に向けた議論をおこなった。

#### 2.1.3. 大学院生オンラインプログラム MOOCs の受講支援・報告会

2023年度の「全員留学」オンライン留学プログラムの実施通知を受け、亥鼻地区では、大学院生を対象にMOOCsの受講支援をおこない、亥鼻地区独自「MOOCs受講者成果報告会」を3部局合同で開催した。報告会では、学生がMOOCsで学修した内容を英語でスライドにまとめ、英語で発表をおこなった。

- ・MOOCs受講マニュアルの改訂
- ・第5回MOOCs受講者成果報告会（令和5年度前期）の開催【資料1】

日時：2023年9月22日（金）13：30-14：45

開催方法：対面式で開催

開催場所：亥鼻キャンパス 医薬系総合研究棟II 薬学部創立120周年記念講堂

発表者：修士1年1名（看護学研究科）、修士2年1名（看護学研究科）、博士3年1名（先端創薬科学専攻）、博士4年1名（医科学専攻） 合計4名

出席者：学生（発表者含む）、教職員 合計16名

発表方法：スライド10枚以内の発表資料を英語で作成し発表も英語でおこなった。1人10分間の発表と続けて5分間の質疑応答をおこなった。発表者は、ほかの発表者全員に対してコメントシートを記入した。

## 2.2. 海外から千葉大学へ

### 2.2.1. 亥鼻地区の実施状況

亥鼻地区では、2022年度後期より段階的に留学生の受入や、海外との研究交流を再開し、2023年度には、各部局での留学生受入と交流が活発におこなわれた。

## 2.2.2. 部局別活動状況 ※主な活動のみ記載

### 【医学部】

医学部では、2023年度に複数の協定校からの臨床実習留学生の受け入れを行い、ドイツ：ライプツィヒ大学（1名）、デュッセルドルフ大学（2名）、ゲッティンゲン大学（1名）、シャリテ医科大学（3名）、フランス：コート・ダジュール大学（2名）、タイ：マヒドン大学（2名）、韓国：インジェ大学（2名）、シンガポール：南洋理工大学 Lee Kon Chian 医学部（2名）、台湾：国立台湾大学（2名）、国立陽明交通大学（1名）が医学部附属病院で臨床実習をおこなった。受け入れ科としては外科系や内科系の診療科の他に、精神科、耳鼻科、救急科、放射線科など様々な診療科で留学生を受け入れ、留学生は1診療科2-4週間の実習に参加し、同時期に実習する千葉大学医学部生とも英語で交流をおこなった。

### 【薬学部】

薬学部では、9月11日～12月1日の日程でシルパコーン大学薬学部から2名のインターンシップ学生を受け入れた。また、10月1日～2月24日の日程で中国薬科大学薬学部から1名の学生を受け入れた。いずれの学生も高学年の学生であり、研究を目的としたインターンシップであったため、薬学部の研究室に所属し、主に研究活動をおこなった。終了した学生には、修了証を発行した。さらに、先方の大学から要請があった場合、単位の付与も可能となる準備をしている。

### 【看護学部】

看護学部では、7月10日～22日の日程で、台北医学大学よる学部学生3名を受け入れ、病院や地域包括支援センター、認知症カフェ等の見学実習や学部授業への参加と学生との交流をおこなう短期プログラムを提供した。GRIPプログラムにおいて2月29日～3月9日の日程でシンビオシス国際大学（インド）より10名、レスター大学（英国）より5名の学生を受け入れた。シンビオシス国際大学学生は特別聴講学生としての受け入れである。両学生を混合のチームとして、3つの学習テーマ「災害準備」「ソーシャルキャピタル創出」「ホームレス支援」に関する演習を提供した。また、BMXにおいては2024年3月10日～3月17日の日程でシンシナティ大学看護学部学生10名を特別聴講学生として受け入れ、病院、在宅看護、保育園、地域住民による認知症カフェ等の見学実習や本学学生との交流をおこなう短期プログラムを提供した。

### 【医学薬学府（医学領域）】

令和5年度、医学薬学府（医学領域）では、博士課程12名（中国：6名、バングラデシュ：1名、インドネシア：3名、トルコ：1名、メキシコ：1名）、修士課程6名（中国5名、シンガポール1名）、研究生13名（中国：13名）の受入をおこなった。また、協定校であるチェンマイ大学より、特別研究学生1名の受入をおこなった。

### 【医学薬学府（薬学領域）】

チュラポーン大学院大学（タイ）との間で締結した、Dual Doctoral Degree Program between Graduate School of Medical and Pharmaceutical Sciences of Chiba University and the

Chulabhorn Graduate Institute を利用し、1名のチュラボン大学院大学の学生が千葉大学に入学した。

#### 【看護学研究科】

特記事項なし

### 2.3. 学修支援

#### 2.3.1. 亥鼻 English House（仮称）設置の検討

令和5年10、11月に開催された学生と部局長との懇談会（医、薬、看）において、亥鼻キャンパスの学生から、英語能力向上や異文化間コミュニケーション促進、留学情報収集のための機会を求める要望が提示された。このことを受けて、亥鼻にも、西千葉にある English House に類似した場を設けることについて、検討を開始し、学生のニーズを把握するためのアンケートを、2024年1月9日（火）～2月29日（木）に実施した。【資料2】

#### 2.3.2. 亥鼻地区留学支援サイト（ホームページ）の改訂

亥鼻地区の「全員留学」に係る学生支援を充実させるとともに、実施事例を学内外に発信し、本学の“ENGINE”成果の一部を広報することを目的に、「亥鼻地区留学支援サイト」(<https://www.ryugaku.chiba-u.jp/inohana/>)を2022年12月に開設した。令和5年度には、同ホームページの訴求力を高めるために、トップページ画像を2点追加し、「留学プログラム」紹介ページをカテゴリー分けし、情報検索の簡便化を図った。改訂したホームページは2023年12月に公開した。【資料3】

#### 2.3.3. 留学準備／英語学修のための図書の貸出

留学準備／英語学修支援として、亥鼻地区の全学生を対象に留学準備や英語学修のための図書の予約受付と貸出業務を実施した。【資料4】

## 3. 調査・研究

### 3.1. 学生対象調査の実施

#### 3.1.1. 令和4年度調査の結果分析と報告

令和4年度に実施した留学に関する意識調査および留学事前・事後アンケート（BEVI）の結果を分析し、学生の意識・価値観とコンピテンシーの関連について検討した。【資料5】

#### 3.1.2. 令和5年度調査の実施

「全員留学」の効果や成果を検討するために、学生を対象にアンケート調査をおこなった。本年度は、留学プログラム履修生を対象として、前期（第1～3ターム）と後期（第4～6ターム）のプログラム参加前後に、留学に関する意識調査と国際的な心理テスト BEVI を用いたアンケート調査を実施した。令和5年度後期の調査から、留学に関する意識調査のアンケート依頼方法を変更し、全学募集プログラムの履修生には、留学生課から各プログラム履修生全員に、亥鼻の部局独自プログラムの履修生には、プログラム担当教員から履修者全員に、アンケートへの協力を依頼した。それゆえ留学に関する意識調査のアンケートに

は、亥鼻の学生だけでなく、西千葉および松戸の学生からも回答を得ているが、本報告においては、亥鼻の学生だけを抽出し報告する。また、令和4年度と令和5年度の留学プログラム履修生を対象に留学に関するインタビュー調査を実施した。

・【前期履修】アンケート調査の実施

対象：令和5年度前期の留学プログラム履修生

(学部生約 100名、修士/博士前期課程および博士課程 約 70名)

調査期間：

①履修前アンケート 2023年7月10日(月)～9月15日(金)

②履修後アンケート 2023年12月11日(月)～2024年2月29日(木)

回答数：

①履修前アンケート 留学に関する意識調査 30件(回収率 約2割)

留学アンケート (BEVI) 20件(回収率 約1割)

②履修後アンケート ※履修前アンケート回答者を対象に調査依頼

留学に関する意識調査 15件(回収率 履修前回答数の5割)

留学アンケート (BEVI) 4件(回収率 履修前回答数の2割)

・【後期履修】アンケート調査の実施

対象：令和5年度後期の留学プログラム履修生(調査継続中)

調査期間：

①履修前アンケート 2023年11月6日(月)～2024年3月24日(日)

②履修後アンケート 2024年1月9日(火)～2024年5月31日(金)(予定)

回答数：

①履修前アンケート 留学に関する意識調査/留学アンケート (BEVI) ※集計中

②履修後アンケート ※履修前アンケート回答者を対象に調査依頼中

・【前期履修】インタビュー調査の実施

対象：令和4年度～令和5年度の留学プログラム履修生

(学部生 13名、修士課程 2名)

調査期間：2023年11月6日(月)～2023年12月6日(水)

- ・令和5年度留学プログラム履修生を対象とした調査の概要【資料6-1】
- ・学生を対象とした留学に関する意識調査の回答結果(前期)【資料6-2】
- ・学生を対象とした留学アンケート (BEVI) の回答結果(前期)【資料6-3】

### 3.2. 留学関連の情報収集と研究

令和3年度から令和5年度に実施した学生対象調査の研究成果について、学会発表や論文を通じて、広く学内外に公開した。

- ・中村絵里「客観的測定テスト BEVI を用いた全員留学の評価—国際・文化体験への関心が低い学生の留学効果—」異文化間教育学会第44回大会(2023年6月11日)  
<https://qr.paps.jp/hsYj7>
- ・中村絵里・松本 暢平・大西 好宣・伊藤 彰一(2023)「留学とグローバル・コンピテンシーの主観的評価との関連—医療系学生の短期オンライン留学プログラムを事例に—」『日本教育工学会論文誌』, 47巻4号, pp. 629-638. <https://doi.org/10.15077/jjet.47022>

- ・大西好宣・中村絵里（2024）「短期留学の学習成果及び成長要件としてのレディネス（BEVI を用いたハワイ大学研修の実践例）」『グローバル人材育成教育研究』, 11 巻 2 号, pp. 46-53.

#### 4. 名簿・活動スケジュール

##### 4.1. 定例ミーティング

亥鼻地区の留学支援業務に係る定例ミーティングを、月 1 回から 3 回不定期で実施し、2023 年度中に合計 20 回開催した。定例ミーティング参加者は、以下の表のとおり。

部局	職名	氏名
医学研究院	教授	伊藤 彰一
未来医療教育研究機構	特任助教	中村 絵里
亥鼻地区事務部学務課	課長	戸田 貴子
	副課長（大学院）	渡邊 美雪
	副課長（学部）	古場 義文

##### 4.2. 亥鼻地区 ENGINE 推進 WG・サブ WG

亥鼻地区 ENGINE 推進 WG を 6 月と 3 月に、サブ WG を 9 月と 12 月に開催した。

###### 4.2.1. 委員名簿

部局	職名	氏名	所属する学内の留学関連組織
医学部	教授	◎伊藤 彰一	国際教育センター ↳運営会議 ↳派遣推進部会 ↳短期留学支援専門委員会 (副委員長)
	特任助教	塚本 知子	
薬学部	教授	森部 久仁一	
	教授	小椋 康光	国際教育センター ↳受入推進部会 ↳留学生支援専門委員会
看護学部	助教	Casenove David	
医学薬学府（医）	教授	池原 譲	
	教授	清水 栄司	
医学薬学府（薬）	教授	伊藤 晃成	
	教授	根本 哲宏	
看護学研究科	准教授	飯田 貴映子	
	講師	野崎 章子	
未来医療教育研究機構	特任助教	中村 絵里	国際教育センター ↳派遣推進部会 ↳短期留学支援専門委員会

◎ = 亥鼻地区 ENGINE 推進 WG 長

#### 4.2.2. 活動スケジュールと議題

	日時	議題
第1回 WG	2023年5月29日(月) 16:00-17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度委員、開催日程</li> <li>第5回 MOOCs 受講者成果報告会(令和5年度前期)の実施概要の確定</li> <li>留学ガイドブック(亥鼻キャンパス)のプログラム情報更新</li> <li>2022年度活動報告の補遺作成</li> <li>令和5年度の各部局の留学計画</li> <li>国際教育センター運営会議、留学生派遣推進部会の報告</li> </ul>
第1回 サブWG	2023年9月12日(火) 持ち回り協議 (メール協議)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5回 MOOCs 受講者成果報告会(令和5年度前期)の実施要項と参加者確定</li> <li>亥鼻地区留学支援サイトの改訂</li> <li>2022年度活動報告の補遺作成</li> <li>COIL(アラバマ大学、シンシナティ大学)実施の報告</li> </ul>
第2回 サブWG	2023年12月7日(木) 16:00-16:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>亥鼻 English House の再設置検討のための学生アンケート実施</li> <li>亥鼻地区留学支援サイトの改訂</li> <li>第6回 MOOCs 受講者成果報告会(令和5年度後期)の実施概要と申込状況の報告</li> <li>部局独自留学プログラムの報告(薬学留学、Blended Mobility Project (BMX))</li> </ul>
第2回 WG	2024年3月7日(木) 16:00-16:54	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年度活動報告の初稿の検討</li> <li>亥鼻 English House(仮称)の再設置検討</li> <li>運営体制</li> <li>次年度の活動内容、日程</li> </ul>

#### 4.3. 2023 年度年間活動スケジュール

2023 年 度	活動					学修支援		調査・研究	
	亥鼻地区 ENGINE 推進 WG・ サブWG	国際教育 センター 運営会議	国際教育 センター 留学生派遣 推進部会	国際教育 センター 留学生派遣 推進部会 短期留学支 援専門委員 会	国際教育 センター 留学生受入 推進部会	MOOCs 受講支 援・報 告会	亥鼻地 区留学 支援サ イト	学生対 象調査 の実施	留学関 連の情 報収集 と研究
4月		◎	◎		◎	↑		↑	↑
5月	◎	◎	◎	◎				前年度調査	
6月		◎	◎					↓	研究発表
7月								↑	
8月								前期調査	
9月	◎	◎	◎		◎	報告会			
10月		◎					↑		
11月				◎			↓		
12月	◎	◎					改訂	後期調査	論文発表
1月				◎					
2月			◎			↓			
3月	◎							↓	論文発表

◎ WG・サブWG・運営会議・部会・専門委員会